

4. 各学部・学科の各段階における到達目標

<管理栄養学部> (認定課程：栄養教諭1種免)

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	栄養教諭の概要を知る（教職履修ガイダンス）。
	後期	教育の重要性を理解するとともに、教師及び栄養教諭の職責、資質、社会的役割や身分保障等を理解する（教職入門）。
2年次	前期	生徒指導の意義を理解し、子どもの精神状態や家庭環境、社会的背景等を起因とする「問題行動」に対して、その基本的な対応方法を習得する（生徒指導論）。また、学校の教育活動全体を通して行う道徳教育やその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、道徳教育に関する教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、道徳教育の実践的な力を習得する（道徳教育の指導法）。
	後期	家族や社会、人間関係における広義の教育作用や、共存社会で求められる教育の課題と可能性について考察することを通して、自分なりの教育哲学を形成する（教育原論）。また、「教える」「学ぶ」という両者の立場から、学校における授業及び指導、学習に関する基礎知識を学び、問題解決能力等の教育実践力を養う（教育心理）。さらに、教育相談とカウンセリングについての基礎知識やリレーション作りの方法を習得し、指導支援の実践力を養う（教育相談とカウンセリング）。
3年次	前期	教育方法に関して具体的な学習指導方法や技法を学ぶことによって、教師に必要な実践力の基礎を身につけるとともに、学習指導方法についての研究成果を実際の教育活動に還元する力を身につける（教育方法論）。また、食育を通して生涯を健康に生きるための自己管理能力を子どもに身につけさせるために必要な知識と技能を習得する（学校栄養指導論I）。さらに、新学習指導要領における特別活動の目標と内容を理解し、教材研究等を通して特別活動に関する指導法を習得する（特別活動の指導法）。
	後期	わが国の教育を支え課題解決に取り組む教育行政について学び（教育行政学）、新学習指導要領を基準として各学校で編成される教育課程の意義や編成方法を理解する（教育課程）。また、3年次前期に続いて、食に関する自己管理能力を子どもに身につけさせるために必要な知識と技能を習得する（学校栄養指導論II）。さらに、教育実習の意義と概要を知り、学習指導案の作成、授業体験とその後の検討協議の訓練を通して、栄養教諭としての教育実践力を高める（栄養教育実習指導）。必要に応じて、実際の教育現場で学校や子どもについての理解を深め、子どもとのコミュニケーションの方法等を身につける（教職ボランティア）。
4年次	前期	3年次後期までに学んだ専門科目や教職科目、教養科目等で習得した知識を教育実践に活かす（栄養教育実習）。
	後期	専門科目や教職科目等で学んだ知識や技能の深化、統合、補完を図り、集団活動や実践演習を通して生きて働く指導方法や技術の習得および教育の今日的課題に対処できる実践力を身につける（教職実践演習）。

<子どもケア学科子どもケア専攻> (認定課程：保健一種免)

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>教員としての基礎となる幅広い教養を身に付けるために、日本の憲法、英語コミュニケーション、スポーツと健康科学及び情報リテラシー演習等を履修する。また学科共通科目であるヒューマンケア論及び子育ての原理等を通して、子どものケアに関して幅広い領域から理解を深める。さらに、専門科目である衛生学及び養護概論Ⅰを通して保健科教員としての基礎的能力を身につける。</p>
	後期	<p>基礎的教養として、倫理学へのいざない、英語コミュニケーション及び表計算演習等を履修し、教員としての基礎的能力を身に付ける。また、公衆衛生学（予防医学）、学校保健、看護学Ⅰ及び養護概論Ⅱの専門的科目を通して、学校保健分野に占める保健教育活動のあり方を理解する。</p>
2年次	前期	<p>1年生で習得した知識及び技能をもとに、保健教育（保健指導も含む）に必要な基本的技術の習得のため、学校保健実習及び養護活動演習を履修する。また、教育原論や教育課程を通して、教育の本質や目的、方法を理解し、自らの教育に対する考えを構築する。</p>
	後期	<p>学科共通科目である子どもの病気Ⅰ及び生涯発達心理学及び専門科目である救急処置及び健康相談の理論と方法等の履修を通して、子どもの健康課題を把握し、それらに対し、保健科教員として効果的に解決できる力を身に付ける。また、保健科教育法Ⅰでは保健科教育の理論と方法を習得する。小学校及び中学校の体育（保健領域）・保健体育科（保健分野）の学習指導要領、教科書、指導書を理解したうえで授業づくりができる力を培う。</p>
3年次	前期	<p>専門科目である思春期保健、学校安全及び健康相談演習等の履修を通じて、子どものニーズ・課題を把握し、それらに対し、保健科教員として効果的に解決できる力を身に付ける。また、保健科教育法Ⅱでは中学校における保健科教育について学習指導要領や教科書について分析・考察を行った上で指導案や資料の作成をし、効果的な授業を行うための理論や方法を習得する。</p>
	後期	<p>専門科目である微生物学・免疫学及び薬理学の履修によって基礎的知識をさらに広げ、保健科教員の専門性を高める。介護等体験では個人の尊厳及び社会連帯に関する認識を深め、教員としての資質向上を図る。また、保健科教育法Ⅲでは、高等学校における保健科教育について学習指導要領や教科書についてその内容を把握する。さらに、指導案の作成方法・評価方法について理解を深めるとともに、授業の実践力を養う。</p>
4年次	前期	<p>専門科目である子どもの病気Ⅱ及び保健統計学演習では、子どもたちの健康課題・ニーズを統計学的手法を使用して明確にし、課題解決に向かう力を身に付ける。また、保健科教育法Ⅳでは、理論的な根拠のある授業づくりができるよう、知識や実践力を身に付ける。教育実習指導では、実習に向けて、その意義と目的、学習指導のあり方、生徒指導及び学級経営について理解を深める。教育実習では、これまで学習した教職・教養・専門科目からなる基礎知識を統合化・体系化し教育実践に活かせるように取り組み、教師としての資質向上を図る。</p>
	後期	<p>卒業研究では4年間で身に付けた知識やスキルを統合し、課題解決に主体的・協動的に取り組み、論文にまとめる。また教職実践演習では、今までの学びを統合し、使命感や責任感に裏打ちされた確かな実践的指導力を有する教員としての資質の構築とその確認を行う。</p>

<子どもケア学科子どもケア専攻> (認定課程：養教一種免)

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	養護教諭の基礎となる幅広い教養を身に付けるために、日本の憲法、英語コミュニケーション、スポーツと健康科学及び情報リテラシー演習等を履修する。また学科共通科目であるヒューマンケア論及び子育ての原理等を通して、子どものケアに関して幅広い領域から理解を深める。さらに、専門科目である衛生学及び養護概論Ⅰを通して養護教諭としての基礎的能力を身につける。
	後期	基礎的教養として倫理学へのいざない、英語コミュニケーション及び表計算演習等を履修し、養護教諭としての基礎的能力を身に付ける。また、公衆衛生学（予防医学）、学校保健、看護学Ⅰ及び養護概論Ⅱの専門的科目を通して、学校保健活動のあり方を理解する。
2年次	前期	1年生で習得した知識及び技能をもとに、保健教育（保健指導も含む）に必要な基本的技術の習得のため、学校保健実習及び養護活動演習を履修する。また、教育原論や教育課程を通して、教育の本質や目的、方法を理解し、自らの教育に対する考えを構築する。
	後期	学科共通科目である子どもの病気Ⅰ及び生涯発達心理学及び専門科目である救急処置及び健康相談の理論と方法等の履修を通して、子どもの健康課題を把握し、それらに対し、養護教諭として効果的に解決できる力を身に付ける。養護実習指導では、実習に向けて、その意義と目的及び内容等の理解をはじめ、実習に備えての事前指導、実習後に行う事後指導を通して、実習の効果を高め、養護教諭に必要な資質及び力量や態度を身に付ける。また臨床実習を通して、地域における学校保健の役割について理解する。
3年次	前期	専門科目である思春期保健、学校安全及び健康相談演習等の履修を通じて、子どものニーズ・課題を把握し、それらに対し、養護教諭として効果的に解決できる力を身に付ける。養護実習では実習校において必要な専門的知識や技術を体験的に学習すると同時に、学校組織の一員としての役割や立場を学ぶ。また保健室経営、学級経営及び学校行事等での経験を通して子どもの理解を深め、望ましい養護教諭像の確立を目指す。
	後期	専門科目である微生物学・免疫学及び薬理学の履修によって、基礎的知識をさらに広げ、養護教諭としての専門性を高める。また、ゼミナールⅠでは、卒業研究に先立ち、研究の意義を理解するとともに、文献・資料収集、フィールド調査の方法を習得する。
4年次	前期	学科共通科目である子どもの福祉やジェンダー論等の履修を通じて、現代の諸課題に対する理解を深める。専門科目である子どもの病気Ⅱ及び保健統計学演習では、子どもたちの健康課題・ニーズを統計学的手法を使用して明確にし、課題解決に向かう力を身に付ける。またゼミナールⅡでは、ゼミナールⅠを踏まえ、研究テーマの設定と研究計画の作成、さらには調査・研究作業を進めていく。その過程で養護教諭としての知識や考え方について深める。
	後期	ゼミナールⅢでは、ゼミナールⅠ及びⅡの研究展開を踏まえ、卒業研究をまとめる。その際、4年間で身につけた知識やスキルを統合し、課題解決に主体的・協動的に取り組む。また教職実践演習では、今までの学びを統合し、使命感や責任感に裏打ちされた確かな実践的指導力を有する教員としての資質の構築とその確認を行う。

<子どもケア学科幼児保育専攻> (認定課程：幼一種免)

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	幼稚園教諭の基礎的教養としての外国語、健康科学・健康実習を履修し、幼稚園教諭としての基礎的能力を身に付ける。また幼稚園教諭の専門性の土台となる学科共通科目としてのヒューマンケア論や社会福祉、子育て・保育の理論、教職入門を通して、幼稚園教諭としての基礎的能力を身に付ける。
	後期	幼稚園教諭の基礎的教養としての日本国憲法、外国語などを履修し、幼稚園教諭としての基礎的能力を身に付ける。また、保育内容総論や教育行政学についての理論の学習、五領域の中の言葉や環境、音楽表現についての演習を通して、幼稚園教諭として必要な教育・保育の基礎知識を学ぶとともに、基礎技能の基本を身に付ける。
2年次	前期	幼稚園教育の原理や幼児の心理的発達への理解を深め、五領域の中の健康、言葉、音楽表現、造形表現指導に関する知識・技能等を習得する。また、幼稚園教育の教育課程や特別な支援を必要とする子どもの教育について学ぶ。さらに、保育所実習を通して、理論に基づく実践力の基礎を培う。
	後期	保育所実習を通して得た実践との連続性を意識しながら、幼稚園教諭の専門性や職務に関する知識を習得する。また健康や人間関係など五領域の指導に関する知識の理解を深めるとともに、音楽リズムなど表現領域の技能の習熟に努める。さらに、施設実習を通して、社会的な養護を必要とする多様な子ども理解を深め、理論に基づく実践力の基礎を培う。
3年次	前期	五領域の指導に関する総合的な技能を習得するとともに、子どもや保護者へのカウンセリングの基礎知識、基本技能を学び、保護者・家庭支援の理論を学ぶ。また教育実習の事前・事後指導、実習の経験を通じて、幼児の理解を深め、効果的な指導法や幼児と関わるための技能の研究を行う。
	後期	教育実習を通して得た幼児教育の実践との連続性を意識しながら、五領域を総合的に指導する保育構想力、実践力を養うとともに実践者としての協働性、責任感等を養う。またゼミナールを通じて、幼児教育における科学的知見の理解に努めるとともに、課題を見つけ、ゼミ生同士で議論しながら、解決方法を志向する姿勢を身に付ける。
4年次	前期	ゼミナールを通じて、子ども理解の深めるとともに、保育実習の事前・事後指導、また実習の経験を踏まえ、子どもへの効果的な支援・指導法や教育方法、子どもや保育者、保護者とのコミュニケーション技術等の研究を行うことによって、保育・教育の現場における実践的な支援・指導ができるようになる。
	後期	4年間の学びや実習を振り返って、幼児教育の現場では何が教師に求められ、どのように行動しなければならないのかを実践演習を通じて理解し、自身の指導力の実際や教職に対する考え方について総括できるようにする。また、ゼミナールを通じて、身に付けた知識やスキルを統合し、自らの得意分野を生かし、課題解決に主体的・協働的に取り組み、卒業研究・論文に集大成する。

<子どもケア学科幼児保育専攻> (認定課程：小一種免)

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	小学校教諭の基礎的教養としての外国語、健康科学・健康実習を履修し、小学校教諭としての基礎的能力を身に付ける。また小学校教諭の専門性の土台となる学科共通科目としてのヒューマンケア論や社会福祉、子育て・保育の理論、教職入門を通して、小学校教諭としての基礎的能力を身に付ける。
	後期	小学校教諭の基礎的教養としての日本国憲法、外国語などを履修し、小学校教諭としての基礎的能力を身に付ける。また、教育行政学についての理論の学習、教科に関する基礎的科目として、数と形の理論や音楽技法についての演習を通して、小学校教諭として必要な教育の基礎知識を学ぶとともに、基礎技能の基本を身に付ける。
2年次	前期	小学校教育の原理や児童心理の理解を通じて、教育や子ども理解の基礎的知識を習得する。また、教科に関する基礎的科目として、生活科、音楽表現、造形表現指導に関する知識・技能等を習得する。さらに、小学校教育課程や特別な支援を必要とする子どもの教育について学ぶ。
	後期	保育所実習を通して得た学童期以前の子どもの保育実践と小学校教育との連続性を意識しながら、国語科や算数科、生活科、図画工作科など教科指導に関する知識の理解と基礎的な指導法を習得するとともに、音楽リズムなど表現領域の技能の習熟に努める。(開講期検討によって変更の可能性)
3年次	前期	国語や体育、家庭科など教科指導法における技能を習得するとともに、子どもや保護者へのカウンセリングの基礎知識、基本技能を学び、保護者・家庭支援の理論を学ぶ。また教育実習の事前・事後指導、実習の経験を通じて、子どもへの理解を深め、効果的な指導法や子どもと関わるための技能の研究を行う。
	後期	教育実習を通して得た幼児教育の実践と小学校教育との連続性を意識しながら、協働性、責任感等を養う。またゼミナールを通じて、学校教育における科学的知見の理解に努めるとともに、課題を見つけ、ゼミ生同士で議論しながら、解決方法を志向する姿勢を身に付ける。さらに、介護等体験を通じて、特別支援学校の子どもの教育にふれる機会を持ち、多様な子どもの教育への理解を深める。
4年次	前期	ゼミナールを通じて、子ども理解と技術の深化に努める。それとともに、様々な教育方法の研究、道徳教育、総合的な学習の時間の指導、特別活動の指導、生徒指導、進路指導等、多様な教科指導を行うための発展的な知識・技能を身に付ける。また、保育者、保護者とのコミュニケーション技術等の研究を行うことによって、教育の現場における実践的な支援・指導ができるようになる。
	後期	4年間の学びや実習を振り返って、小学校教育の現場では何が教師に求められ、どのように行動しなければならないのかを実践演習を通じて理解し、自身の指導力の実際や教職に対する考え方について総括できるようにする。また、ゼミナールを通じて、身に付けた知識やスキルを統合し、自らの得意分野を生かし、課題解決に主体的・協働的に取り組み、卒業研究・論文に集大成する。